

時事新報定價
時事新報一年三百六十五日一日休刊セズ其代價遞
送廣告料ハ左ノ如シ

一行五號活字廿四行	一日限	六日以上	七日以上
一行二付	十二號	十一號	十號五號

壯士の前途
近來我國に壯士なるものあり多くは士族の子弟にして
祖先の氣風を運傳し又近年の教育に育せられ頼りに政
治に熱心して慷慨悲憤その末流に至りては往々粗暴の
客も少なからず其運動の模様を察するに時として反
對政黨の演説場に入りて之を妨害するものと同時に
自黨の爲めに守護役を爲りて他人の來りて妨害するを
防ぎ或は政黨員を聲援して夫れ其黨の氣勢を張り
或は筋力の威勢を因りて或る黨人の爲めに他派の府縣
會市會議員其他公共の事務者に對して強て辭職勸告を
爲す等、凡そ此邊の事情頗々たるが如し今試に歐洲諸
國を視れば獨逸、露西亞等の國々には三分の文思、七分
の武氣、所謂書生流の風骨を具へたる者が時の政治上
不平を抱きて一部分に運動を試みるものあるが如く不
れども政府の取締嚴重なるが爲め其働に現はるる所は
險険極まる破壊的作用のみとして他に認む可きもの
を見ず唯英國は自由國にして政府は偏に寛大を旨とし
人の行爲を制止するやうの處置稀なるが故に彼の
倫敦府の如き人口五百萬人の中、無職業者と稱する者、
凡そ十七萬人ありと云ひ此無職業者なる者は固より無
智無識にして所謂恒心恒産なく示威運動會の時などに
は隊々公園四辻等豫定の場所に集會して己れを保護せ
んとする政治家の爲りて敢て其氣勢を張り或は往來の
邪魔なりとて巡查が其集會所を移さんとすれば衆を恃
んで之れに抗し時に一場の珍事を惹き起す位の事とし
て其所作自から限りあるが故に政府も之を放擲して敢
て顧みずと云ふ之を要するに日本の壯士は其位地、獨
露の不平黨に異なり其人、英國の無職業者と同じか
らず云はば世界中に類例なく日本特有の者にして前條
にも記したる如く多くは士族若くは士族流の精神を有
する者の子弟なれば其父祖の遺傳も於て文武武氣に乏
しからざるは勿論、壯士の群に在る者は年齢二十若く
は三十、恰も勉學就職の期にして任じて其客氣を抑
へて自から立つ所あらんには大器晩成、後年又至りて
大に國用を爲す可きに或は寒賁にして長欲を欲ひ或は
孟嘗君の門を敲きて鷄鳴狗吠の徒と混じ學業を以て立
身の道を求めず生産を治めて一身獨立の計を爲さず文
明自治の今日に在りて尙や東洋古豪傑の風を追ひ尋常
練在一俠徒を以て任ずるもの如し斯くて他年何の處
に向て其身を落着けると得べきや頃日或る壯士中の
長者ども申す可き人の自白に余は既其方向を誤り
たり自から之れを誤りたるを知らずとも今更如何と
もする能はず學問立身の道に入らんとするも時機既に

時事新報

壯士の前途

晩し、舊て生産業に従事せんとするも其資力のある可
き等なく商工諸會社に雇はれんとするも從來の名譽職
歴等何れも會社員を驚かし或はその禁句に觸れて共に
事を謀らんとするものなく左ればとて腰を官邊へ屈し
て五斗米を求る譯にも行かず北風に嘶くの胡馬からず
して舊同輩と群居するのみを思ふに至るは亦是非もな
き次第あり云々とありしが是れ眞實の經歷にして
今の壯士の前途を思ふて其運命境遇を卜すれば之れ
類するもの多かる可し彼の獨露の不平黨、英國の無職
業者の如き所謂行て返らざる者にして其境遇の彼れが
如き固より怪しむに足らざれども日本の壯士は則ち然
らず一朝方向を改めて勉學就業の道を請ひ尺蠖の屈す
るは伸ぶるが爲めありと覺悟して徐に文明流の立身
法を求めたらんには他年社會を雄飛して一鳴人を驚か
すのみならず所謂國家の元氣を爲りて大に報効を謀る
とを得べき者なれば我輩は今の壯士諸氏が徒に其功
名を急ぎて大器の晩成するを待たず之を中道に天折せ
んとを思へ其前途の方向を就き今日方其猛省を希望
するものなり

右は壯士一身上の利害に就きて我輩の老婆心を陳した
る迄あれ共更に經國上の利害に關して壯士の運動と方
向とを視るに斯か憂ふ可き者もなきに非ず蓋し人間の
働は物理の法に違はざる者にして今同一の方向を指し
て其運動を續くるときは物理學に所謂慣性を成して
軌線を走る汽車の如く俄に止む可らざるは勿論、之を
止むるに其道を以てせざれば忽ち軌線を逸出して破裂
毀損の禍を生ずるも自然の原則も争ふ可らず左れ
は古今經國の士は深く此働に注目して人力の慣性を
鎮むるに畢生の思慮を費さざるものなく例へば元龜天
正の際、群雄所在を割據して干戈戰止む時なく禍亂
の久しき途又一種戰爭の慣性を成したりしかば豐太
閻不世出の才を以て之を統一するに及んでも此慣性
を奈何ともする能はず乃ち征韓の役を起して鋒鏑の餘
勢を海外へ銷盡せんとしたるは識者の信じて疑はざる
所なり降て王政維新の際も攘夷と云ひ討幕と云ひ武
氣頗る激昂せしかば明治初年の頃に至りて毎度彼の習
慣性の働を現はし當時要路の經國家は常に之を鎮撫す
るに苦み故内閣閣員木戸孝允氏の如き特に鎮撫の任に
當り其苦慮名狀す可らざる程なりして他日之を人々
語りたりと云ふ然も習慣性の勢は遂に制止す可き限
りに非ずして口實名義は様々なれども山口、佐賀等の
亂亂より彼の西南の役に至るまで尙や其餘勢を銷磨す
るもど能はざりしもの如し左れば今日の壯士騒ぎも
今後今日の方向を取りて今日の運動を繼續するときは
自然その習慣性を成して俄に其働を制止せんとすれば
或は破壊法を生ずるの恐なしと云ふ可らず然るに我
國の前途を視れば國會開議の期も旦夕に迫り兼ねて我
輩の論告せし如く我が第一國會は世界萬國人を對して
國の名譽面目を保つが爲め特々平和靜重を要するもの
なれば彼の腕力家客氣家をして之れに接近せしむるな
と思ひも寄らざるもどあるべく左ればとて壯士輩の運
働が一旦その習慣性を成したる以上は或は政黨上の軋
轢も或は議員の擧擧上に向れにか其餘勢を洩さざるを
得ず此時に當りて政府が俄に其氣勢を防止せんとすれ
ばさすく之を激す可きが故に世上の長老、經國の士
人、前途の長計を思ふ者は壯士運動の習慣性を今日未
だ成らざるに制するもどを勉め自ら其責に任ずること

甚だ肝要なる可きなり

雜報

○淺川德則氏 新任の神奈川縣知事淺川德則氏は今四
日赴任事務を引續く筈なり
○慶應義塾學費募集 同塾にては大學部設置につき全
國の有志より廣く學費の募集に着手し昨年中にて既に
十餘萬圓に達したるが尙ほ一層手を廣げ本年一月より
は京橋區南橋町二丁目の交詢社内に出張所を設けて募
集事務を取扱ふよし
○猪苗代湖減水の計畫 一昨年磐梯山の噴裂したる際
沙礫長瀬川へ押出して川床を埋めたるより以後出水の
度ごとに沿岸の田畑は其害を被り迷惑一と方ならざる
を以て福嶋縣にては地方税を支出し兼て國庫の補助を
仰ぎ以て堤防を築くもとなり目下其工事中なり然る
に同地方の有志者は長瀬川の堤防を築き其川床を深
くするも固より可なれども元來長瀬川の水は流れて猪苗
代湖に注ぐものなれば先づ試みに同湖の水量を減する
の工風を設けたらんに自然長瀬川の疎水を好くし假
令へ沙礫の上流崩れ込むも水勢の急なるを共に下流
に押し下し川床の高さを致すが如き心配はあかるべし
との意見を以て湖水を減するの仕組を設けんとを其
筋へ出願せんと昨今計畫中なりと云ふ
○芝區の新年會 丸田芝區長を初め芝區有志者百四十
餘名の諸氏は明後六日午後二時より芝公園紅葉館に集
會して新年宴會を開くよし
○共同倉庫會社 橫濱貿易商組合の創立に係る共同倉
庫會社建築の件に付舊臘廿七日同港町會所へ貿易商人
一同出頭して會議を開き小野光景氏議長席に就き同會
社倉庫建築の趣旨を述べたるに賛成を得て建築の事
議決し舊縣廳跡の地所へ貿易商組合共同倉庫會社建築
場といふ標杭を建て其工事は近々着手の都合ありと
○日本船舶會社 船の津は備後の南隅に在り伊豫諸
岐と相對し中國沿岸の良港なればとて船渠築造の計畫
起り客月未既に其創立の出願に及びしとあり
○議士遺物陳列場 高輪なる萬松山泉岳寺は人も知る
赤穂義士大石雄雄等四十七人埋骨の所にして明治初年
聖駕東巡の砌特に金幣を賜ふて追賞せられしが年を経
るに隨ひありし堂宇の莊嚴も漸く衰滅に歸せんとする
の姿あり去る十八年當時の住職と檀徒との間に紛議を
生じ國體嚴氏が更りて住職となりてより舊觀回復の
事に盡力し内務省より保存金を下賜せられ朝野紳士等
よりも義捐金あり積もりて三萬餘圓の巨額に達したる
に付先づ義士遺物陳列場を新築せんとて先頃より工事
に着手し舊臘中地形も出來上りたる由なるが右は煉瓦
二枚半積み二階土造に玄關を附け落成は来る三月下
旬の日取にて四月一日より向ふ五十日間大石其雄持念
佛なる摩利支天の開帳に兼て其開場式を行ふ筈ありと
○清國通信 (上海十二月二十日發)
廣東省の礦況 清國に礦山の多きは内地を越する人
々の實際目撃する所にして深山の奥に到れば礦脈層
重して空しく財寶を地下に埋むるの有様なるは實に惜
むべき事あるが以前政府は各處の礦山を封鎖し開採
の法を設けたりしも文明主義の流行するに及び當路
の有志者は頻りに解禁の一條を稟請して許可を得たる
に付漸く開採の端緒を開き四方の紳商を募りて資金を
集め以て進々盛況を呈するに至りたるが如くなれども

能く其
畢竟礦
あるべ
礦山の
らざる
道光の
ものあり
して公
にして
云ひ儘
居る有
は遠算
ふる程
ざるを
百年位
銀貨鑄
すべき
は錠と
通用し
旅行す
すると
と云へ
には數
ものな
ぎされ
用する
敷設せ
しめざ
り出た
んど思
し清國
の分量
認め其
厚意を
鑄造の
勘考の
ば早晩
一方な
印紙稅
するの
の商品
得も亦
々容易
片は關
云へり
獨逸銀
百萬兩
當地に
ンケル
と東方
一新す
海軍生
伯の監
力する
の優劣
學せし
志願生
て論文

○新報
凡例
一、本報
二、凡例
三、凡例
四、凡例
五、凡例
六、凡例
七、凡例
八、凡例
九、凡例
十、凡例
十一、凡例
十二、凡例
十三、凡例
十四、凡例
十五、凡例
十六、凡例
十七、凡例
十八、凡例
十九、凡例
二十、凡例
二十一、凡例
二十二、凡例
二十三、凡例
二十四、凡例
二十五、凡例
二十六、凡例
二十七、凡例
二十八、凡例
二十九、凡例
三十、凡例
三十一、凡例
三十二、凡例
三十三、凡例
三十四、凡例
三十五、凡例
三十六、凡例
三十七、凡例
三十八、凡例
三十九、凡例
四十、凡例
四十一、凡例
四十二、凡例
四十三、凡例
四十四、凡例
四十五、凡例
四十六、凡例
四十七、凡例
四十八、凡例
四十九、凡例
五十、凡例

○新報
凡例
一、本報
二、凡例
三、凡例
四、凡例
五、凡例
六、凡例
七、凡例
八、凡例
九、凡例
十、凡例
十一、凡例
十二、凡例
十三、凡例
十四、凡例
十五、凡例
十六、凡例
十七、凡例
十八、凡例
十九、凡例
二十、凡例
二十一、凡例
二十二、凡例
二十三、凡例
二十四、凡例
二十五、凡例
二十六、凡例
二十七、凡例
二十八、凡例
二十九、凡例
三十、凡例
三十一、凡例
三十二、凡例
三十三、凡例
三十四、凡例
三十五、凡例
三十六、凡例
三十七、凡例
三十八、凡例
三十九、凡例
四十、凡例
四十一、凡例
四十二、凡例
四十三、凡例
四十四、凡例
四十五、凡例
四十六、凡例
四十七、凡例
四十八、凡例
四十九、凡例
五十、凡例

○新報
凡例
一、本報
二、凡例
三、凡例
四、凡例
五、凡例
六、凡例
七、凡例
八、凡例
九、凡例
十、凡例
十一、凡例
十二、凡例
十三、凡例
十四、凡例
十五、凡例
十六、凡例
十七、凡例
十八、凡例
十九、凡例
二十、凡例
二十一、凡例
二十二、凡例
二十三、凡例
二十四、凡例
二十五、凡例
二十六、凡例
二十七、凡例
二十八、凡例
二十九、凡例
三十、凡例
三十一、凡例
三十二、凡例
三十三、凡例
三十四、凡例
三十五、凡例
三十六、凡例
三十七、凡例
三十八、凡例
三十九、凡例
四十、凡例
四十一、凡例
四十二、凡例
四十三、凡例
四十四、凡例
四十五、凡例
四十六、凡例
四十七、凡例
四十八、凡例
四十九、凡例
五十、凡例

○新報
凡例
一、本報
二、凡例
三、凡例
四、凡例
五、凡例
六、凡例
七、凡例
八、凡例
九、凡例
十、凡例
十一、凡例
十二、凡例
十三、凡例
十四、凡例
十五、凡例
十六、凡例
十七、凡例
十八、凡例
十九、凡例
二十、凡例
二十一、凡例
二十二、凡例
二十三、凡例
二十四、凡例
二十五、凡例
二十六、凡例
二十七、凡例
二十八、凡例
二十九、凡例
三十、凡例
三十一、凡例
三十二、凡例
三十三、凡例
三十四、凡例
三十五、凡例
三十六、凡例
三十七、凡例
三十八、凡例
三十九、凡例
四十、凡例
四十一、凡例
四十二、凡例
四十三、凡例
四十四、凡例
四十五、凡例
四十六、凡例
四十七、凡例
四十八、凡例
四十九、凡例
五十、凡例